

穂の国の豊かな
生きものと人を
次世代につなぐ

East Mikawa

豊橋市、豊川市、蒲郡市

東三河生態系ネットワーク協議会は、2014年(平成26年)2月17日に「穂の国いきものがたり、子どもたちへ水と緑でつなげよう」をテーマに設立され、本格的なフォーラムや自然観察バスツアーなどを積極的に企画・開催しています。自然の保全・創出を通じて生きものをつなげるだけでなく、人や次世代へのつながりも大切に育んでいます。

協議会テーマ

穂の国いきものがたり
子どもたちへ
水と緑でつなげよう



生物多様性モニタリング調査

自然の手入れだけでなく、自然をつくることも大切

東三河エリアはムササビが生息する里山があり、三河湾には渡り鳥の大切な中継地である汐川干潟などがあります。三河湾の竹島には自然林が残り、表浜海岸ではアカウミガメが上陸・産卵します。梶野保光会長(NPO法人東三河自然観察会)は、次のように語っています。「自然に任せてはだめで、人の手が入らなければ生態系は保てません。また保全だけではなく、ビオトープなどの自然の創出も大切です。愛知大学など学校や園庭にビオトープをつくっているのもこのエリアの特徴です」。



自然観察バスツアー(水質調査)

親子ともに楽しく学べるフォーラムやツアーを企画

同協議会は31団体が所属(2021年(令和3年)9月現在)。年に1回、市民を対象に「東三河生態系ネットワークフォーラム」を開催しています。毎回、要旨集まで発行しており、熱心に取り組んでいます。2016年(平成28年)のフォーラムでは一般市民約200人が集い、生物多様性保全や生態系ネットワーク形成の必要性について学び、地元の高校生や大学生、NPO法人が普段の活動について語りました。

同フォーラムのほかにも、親子向けの自然観察バスツアーを開催しています。ツアーの参加者は、豊川の水質調査などを体験し、身近な自然から生きものをつなぐについて楽しく学んでいます。



地域の生態系
【海】スナメリ、アカウミガメ
【川・池】ヨシ、トンボ
【森】シイ・カシ林、アオバズク



汐川干潟



水辺のいきもの調査
(NPO)朝倉川水フォーラム



公開フォーラム(基調講演)

人と人とのつながり、次世代へのつながりを広げたい

「渡り鳥の保全のための干潟や浅場(※1)の再生、河畔林(※2)の保全・再生による山と海をつなぐ活動など、今後も参加団体と連携して生物多様性保全に取り組んでいきます。また、東三河は母なる川、豊川の恩恵を隣接の新城設楽や渥美半島と享受しているため、今後も連携していきたいです。」(梶野会長)

東三河地域には「ほの国自然ソムリエ学校」のようなリーダー育成の場や、地元の大学との交流機会が多くあります。子供たちがやがて活動のリーダーになり、次の世代に水や緑をつないでいく。穂の国の子どもの成長に今後注目が集まりそうです。

※1) 浅場：岸の近くや川の瀬などで、水深の浅い場所。

※2) 河畔林：河川の周辺に繁茂する森林のこと。



ほの国自然ソムリエ学校(ふるさと公園で竹林間伐体験)

【構成団体一覧】31団体

- <大学等 5>
学校法人愛知大学、国立大学法人豊橋技術科学大学、学校法人電波学園 愛知工科大学、豊川市施設管理協会(赤塚山公園ぎょぎょランド)、一般社団法人竹島社中(蒲郡市竹島水族館)
- <企業等 12>
イノチオホールディングス株式会社、株式会社サーラコーポレーション、総合ポートサービス株式会社、大成建設株式会社名古屋支店三河営業所、デジタルバンクジャパン株式会社、豊橋信用金庫、豊橋埠頭株式会社、株式会社ラグナマリーナ、東三河懇話会、公益社団法人豊橋青年会議所、一般社団法人豊川青年会議所、一般社団法人蒲郡青年会議所
- <NPO等 9>
NPO法人朝倉川水フォーラム、NPO法人東三河自然観察会、NPO法人穂の国森づくりの会、NPO法人佐奈川の会、530運動環境協議会、さがらの森もりクラブ、とよかわ里山の会、ほの国自然ソムリエの会、国際ロータリー第2760地区社会奉仕委員会
- <行政機関 5>
国土交通省中部地方整備局豊橋河川事務所、愛知県、豊橋市、豊川市、蒲郡市

- <おもな活動>
- ・里山に侵入する「モウソウチク」の除伐と竹林の健全化活動
 - ・葦毛湿原などの湿原保全活動
 - ・公開フォーラム
 - ・環境学習ツアー
 - ・参加団体活動見学会